

## 第6学年2組 図画工作科学習指導案

令和6年11月22日（金） 第5校時  
場 所 ランチルーム  
児童数 38名

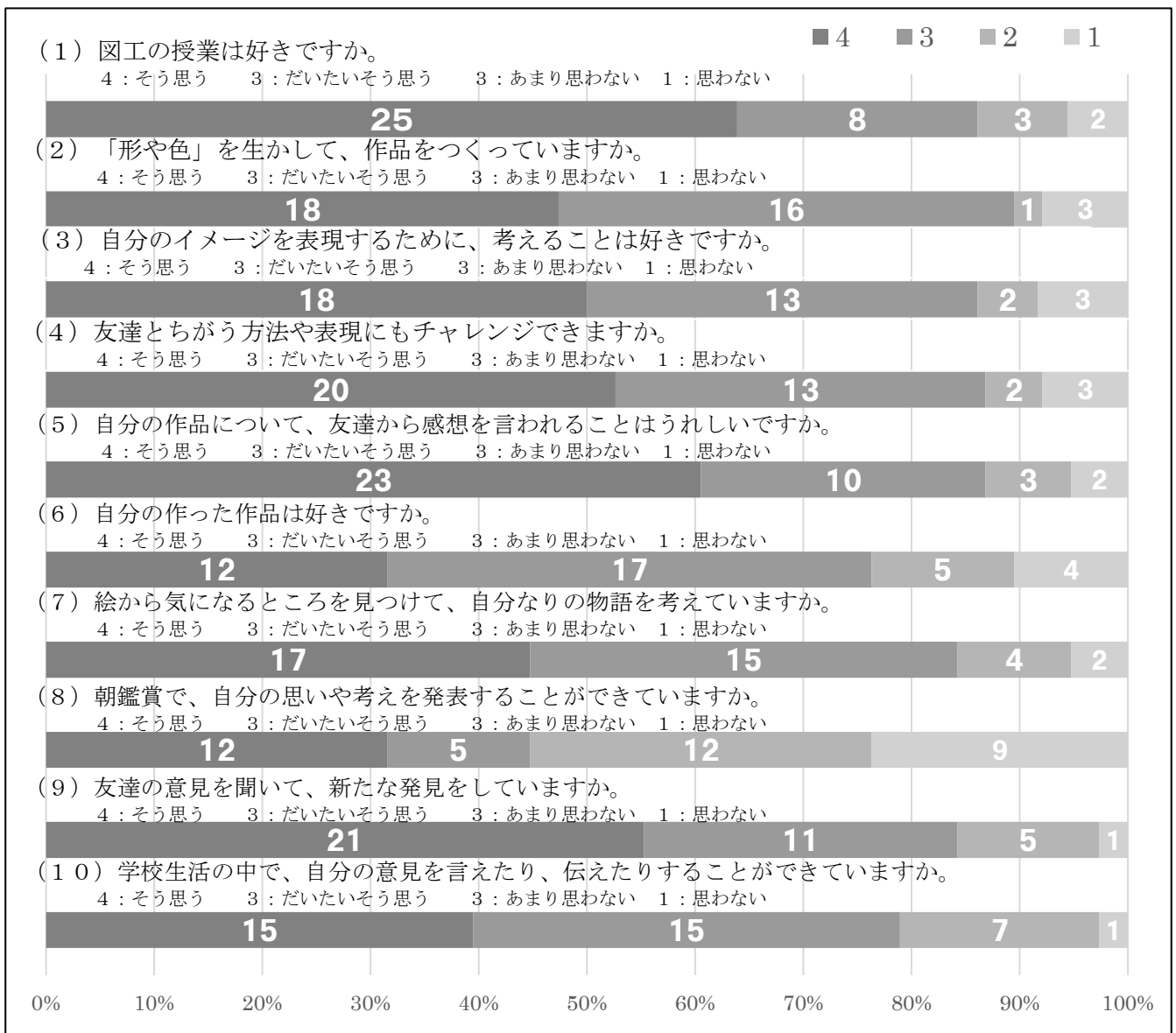
- 1 題材名** 「金属と木でいい感じ！」 立体に表す活動  
A表現（1）イ、（2）イ、B鑑賞（1）ア、〔共通事項〕（1）ア、イ

### 2 題材について

**(1) 児童の実態**

本学級の児童は、図工の学習に意欲的に取り組んでいる姿が多く見られる。以下は4月に行ったアンケート結果である。

【図画工作科の授業についてのアンケート】



上記のアンケート結果をみると、(1) から約9割の児童が「図工が好き」と答えており、図画工作科の授業が好きな児童が多いことが分かる。一方、(6) から「自分の作った作品」について

て肯定的に捉えられていない児童の割合が、一定数いることも分かる。このことから自分の表現に対して自信がもてず、満足できていない傾向があることも分かる。これは、自分のイメージをもちながら表現することができなかつたり、試行錯誤していく中で表し方を工夫しながら表せず諦めてしまったりすることに原因があると考えられる。そこで、思いをもって発想や構想することを大切にする時間を設けたり、友達が表している工夫を視点到鑑賞したりする場を設定することで、充実感を味わいながら表現し、自己肯定感を向上させていく必要があると考える。

1学期に行った「あふれる気持ちを形に」では、粘土の重さ、冷たさ、肌触りなどの質感を感じ取りながら、自分の中からあふれ出る嬉しさや怒り、悲しみなどの気持ちを体の一部で表し、粘土の塊を様々な形にすることを試しながら体感し、手や足などを立体に表した。しかし、一方では自分の気持ちから形をつくる過程で、自分の気持ちと表したい体の一部が一致しないところもあり、自分のイメージ通りに表現できないと諦めてしまったり、発想が広がらず、つくりだす喜びを味わいきれずに終わってしまったりする様子も見られた。そのため、本題材では、材料の質感の違いを感じ、組み合わせでつくり、つくりかえ、つくる学習過程を通して表現するようにしていきたい。そして、一人一人が造形的な活動を思い付いたり、表したいことを見付けたりする中で、試行錯誤を繰り返し、自分なりに納得のいく活動をしたときの充実感を存分に味わうようにし、自らのよさや可能性を見出していくことができるようにしていきたい。

## (2) 学習指導要領上の位置付け

本題材は、学習指導要領の次の内容を受けて設定している。

- A (1) 表現の活動を通して、発想や構想に関する次の事項を身に付けることができるよう指導する。
- イ 絵や立体、工作に表す活動を通して、感じたこと、想像したこと、見たこと、伝えたいことから、表したいことを見付けることや、形や色、材料の特徴、構成の美しさなどの感じ、用途などを考えながら、どのように主題に表すかを考えること。
- A (2) 表現の活動を通して、技能に関する次の事項を身に付けることができるよう指導する。
- イ 絵や立体、工作に表す活動を通して、表現方法に応じて材料や用具を活用するとともに、前学年までの材料や用具などについての経験や技能を総合的に生かしたり、表現に適した方法などを組み合わせたりするなどして、表したいことに合わせて表し方を工夫して表すこと。
- B (1) 鑑賞の活動を通して、次の事項を身に付けることができるよう指導する。
- ア 親しみのある作品などを鑑賞する活動を通して、自分たちの作品、我が国や諸外国の親しみある美術作品、生活の中の造形などの造形的なよさや美しさ、表現の意図や特徴、表し方などについて、感じ取ったり考えたりし、自分の見方や感じ方を深めること。
- [共通事項] (1)
- ア 自分の感覚や行為を通して、形や色などの造形的な特徴を理解すること。
  - イ 形や色などの造形的な特徴を基に、自分のイメージをもつこと。

## (3) 本題材を指導するに当たって

本題材は、金属と木の様々な材料を選択し、金属や木材の加工をした新たな形を組み合わせ、感じたことから自分の表したいことを見付け、工夫して立体に表す題材である。

知識及び技能の観点では、金属と木を材料とした材質感の違いやバランスを理解するため、まずは金属と木の材料の特徴を知ることができるように様々な材料を選択し、材料体験する時間を確保する。また、選択した材料を前学年までに経験した金属や木材を使って技能を総合的に生かせるように用具や場の設定も行う。金属では金づちでたたく、ペンチで曲げる、木材ではのこぎりや電動糸のこぎりで切るなど多様な表し方ができるような様々な用具を使用するため、用具に合わせた安全指導も行う。

思考力,判断力,表現力等の観点では、金属と木の材料の材質感の違いを感じ、材料を使って新しい形をもとに表したいことを発想できるようにする。児童が金属と木という異なる材料の特徴や違いについて話し合うことで材料の様々な特徴について共有する。また、発想や構想をさらに深めるために、友達の金属と木の組合せを様々な角度から鑑賞できるようにする。

学びに向かう力,人間性等の観点では、金属と木の様々な材料を選択し、意欲的に学習に取り組めるようにする。つくりだす喜びを味わい、周囲と関われるようグループで活動し、お互いを認め合い、学び合える場を設定する。そこで自分のよさを十分に感じ、自分の見方や感じ方を深める活動となるようにしていく。

題材を通した指導においては、材料の質感を感じるために第1時では、様々な材料に触れ、選択した材料を使って、自分だけの新たな形をつくる。金属の材料はアルミの針金やアルミホイル、アルミ缶などを使う。木の材料は、角材と自然の木を使う。自然の木は、児童が6年間過ごした学校の校庭に生えていた木を使うことで学校の自然のよさにも改めて気付けるようにする。また、金属は曲げたり、切ったりすることができるようにペンチや金切りばさみを用具として使用する。

形だけでなく、質感が変化するようにアルミホイルを金づちでたたき固めたり、木をアルミホイルで包んだりする。

第2時では、第1時でつくった新たな形から、金属と木の材料の質感や違いを感じることができるようになる。児童のつくった新たな形を提示し「6-2アート展」として、児童が紹介して、話し合う。各々の材料の特徴や違いをよく感じ、材料の質感の感じから発想や構想をする。異なる材料を組み合わせることでどんな新しいものにつながり、材質感の違いを基に感じたことからイメージをもつことで表したいことを見付けることができるような導入にしていく。材料の接着には、熱接着剤やガンタッカーを使用する。

第3時では、組合せにどんぐりや松ぼっくりなど児童自身が集めた新たな材料を使ったり、表したいことに合わせて表し方を工夫したりして表す。

第4時では、表したことさらに自分の主題に迫れるように再度構想し、工夫して表していく。導入では、児童がこれまでに表したことについて紹介する。これからどうしていききたいのかを話し合う中で、もっと主題を高めていくためにどの部分にどんな工夫を取り入れていききたいかを児童と対話する。また、今回は形全体のバランスに着目する。そのため、全体のバランスだけではなく、「部分」に注目した対話となるよう問いかけたり、ステージにのせて紹介をし、全体から部分に注目したりできるようにする。机間指導では、自分の思いをどの方向からも見るができるように「ステージ」を用意し、さまざまな角度から組合せを見ることができるようにする。さらに、児童が主題を高めるためにどんな部分にどんな材料を増やしているのかを対話して明確にしていく。材料の表し方を工夫するには、様々な用具を使用するため、用具に合わせた安全指導も行う。授業の最後には、主題を表すためにどんなことをしたのか、どんな材料を選択し、表したのか児童の思いを共有する場を設ける。

第5時では、さらに自分だけの「いい感じ」を表していくために、材料を選択し、様々な表し方の工夫をして組み合わせる。

第6時では、互いに表したものを紹介し、鑑賞する。どんな材料を選択したのか、その材料の質感から感じたことをどんなことに表したのかを伝え合い、自分の表したことの価値を感じることができるようにする。

### 3 学校研究主題との関連

#### (1) 研究主題

「思い」を生かして、生き生きと表現する児童の育成

(2) 研究主題に迫る手立て

**手立て①**「材料や用具と向き合う時間」の設定と「児童の気付きに共感する働きかけ (第1時、第3時)  
(知識及び技能)

→金属や木などの様々な材料に触れ、材質感の違いを感じ、前学年までの材料や用具などについての経験や技能を総合的に生かして金属や木材を活用し、表し方を工夫して表す。

**手立て②-1**表したいことを見つけるための「自己決定のきっかけづくり」(第2時、第4時)  
(思考力、判断力、表現力等)

→児童の表していることを紹介し、金属と木の材料の質感をもとに、主題を高めていくためには、どの部分にどのような材料を増やしていくかを対話し、主題をどのように表していくか考え、表す。

**手立て②-2**自分の見方や感じ方を深めるための、「対話を生み出す」工夫 (第4時、第5時)  
(思考力、判断力、表現力等)

→組み合わせている材料をさまざまな方向から見たり、友達のつくったものを鑑賞したりできる場の設定を行うことで、バランスに着目して表すことができるようにする。

**手立て③**つくりだす喜びを味わい、夢中になって活動する児童を育成するための「語る」場の設定 (第6時)  
(学びに向かう力、人間性等)

→自分の表したことの「いい感じ」について互いに紹介し、自分の表したことの価値を感じることができるようにする。

**4 題材の目標及び評価規準 (※[共通事項]ア \_\_\_\_\_、イ \_\_\_\_\_)**

(1) 目標

- ・ 自分の感覚や行為を通して、材質感の違いやバランスを理解する。
- ・ 表現方法に応じて木や金属、ペンチ、金切りばさみなどを活用するとともに、前学年までの経験や技能を総合的に生かし、表現に適した方法を組み合わせて表し方を工夫して表す。  
(知識及び技能)
- ・ 金属と木の材質感の違いやバランスなどを基に、自分のイメージをもつ。
- ・ 異なる材料の質感について感じたことから、表したいことを見付け、形や色、材料の特徴、構成の美しさの感じなどを考えながら、どのように主題を表すかについて考える。  
(思考力、判断力、表現力等)
- ・ 主体的に金属と木で表現したり、鑑賞したりする活動に取り組み、つくりだす喜びを味わい、形や色などに関わり楽しく豊かな生活を創造しようとする態度を養う。  
(学びに向かう力、人間性等)

(2) 本題材における評価規準

知識・技能	思考・判断・表現	主体的に学習に取り組む態度
<p><b>知</b>自分の感覚や行為を通して、質感の違いや、バランスを理解している。</p> <p><b>技</b>材料の特徴や表したいことに応じて、前学年までの経験を活かし、金属加工と木材加工の技能を用いて、表し方を工夫している。</p>	<p><b>発</b>金属と木の材質感の違いやバランスなどを基に、自分のイメージをもちながら、異なる材料の質感について、感じたことから、表したいことを見付けている。</p> <p><b>鑑</b>形や色の造形的な特徴を基に、自分のイメージをもちながら、自分たちの作品の造形的なよさや美しさ、表現の意図や特徴、表し方の変化について、感じ取ったり考えたりし、自分の見方や感じ方を深めている。</p>	<p><b>態</b>つくりだす喜びを味わい、主体的に金属と木で表現したり、鑑賞したりする学習活動に取り組もうとしている。</p>

## 5 人権教育上の視点

自分らしさを知り、自分がかげがえのない存在であると感じ、自己実現を目指す。

【自尊感情 [態度]】

## 6 指導と評価の計画（全6時間扱い）

○：指導に生かす評価、◎：全員の学習状況を記録に残す評価

学習のねらい・学習活動	評価の観点、評価方法等						備考
	知識・技能		思考・判断・表現		主体的に学習に取り組む態度		
	知	技	発	鑑	態		
1 ・材料を選択し、金属と木で新しい形を表し、材料の特徴について話し合う。	○ 観察対話作品	○					<ul style="list-style-type: none"> <li>・1時間目では、「技能」の視点で前学年までの技能経験を活かし、金属と木の材料を選択して、表している状況を把握し、指導に生かす。</li> <li>・2時間目では、「思考・判断・表現」（発想や構想）の視点で、質感をもとに、異なる材料を組み合わせ、感じたことから表したいものを見つけているか評価し記録に残す。</li> <li>・3時間目では、「知識・技能」の視点で、金属と木材の表し方を工夫して表しているかを記録に残す。</li> <li>・4時間目では、「思考・判断・表現」（構想）の視点で、表したことからさらに構想を膨らませて、どのように表そうとしているかを評価し記録に残す。</li> <li>・5時間目では、「知識・技能」の視点で材料の表し方を工夫して、自分だけの主題を高めているかを記録に残す。</li> </ul>
2 ・金属と木の新しい形を組み合わせて、表したいことを見付け、主題をどのように表すかについて考える。		○	◎ 観察対話作品				
3 ・金属と木を使って表したいことに合わせて、表したいことを工夫して表す。	◎ 観察対話作品	○					
4 (本時) ・表したことからさらに自分の主題に迫れるように自分の考えを問い直して、工夫して表す。			◎ 観察対話作品 ポートフォリオ				
5 ・材料を加工する技能を活かし、自分だけの「いい感じ」を高め、表していく。	○	◎ 観察対話作品					

6	<ul style="list-style-type: none"> <li>・表したのちから感じたことや考えたことを友人と紹介し合いながら自分の見方や感じ方を深める。</li> </ul>		◎ 観察 対話 作品 ポート フォリ オ	◎ 観察 対話 作品 ポート フォリオ	<ul style="list-style-type: none"> <li>・6時間目では、「思考・判断・表現（鑑賞）」の視点で、児童の学習状況を把握し、記録に残す。</li> <li>・「主体的に学習に取り組む態度」の視点では、活動全体を通して、把握し、最後に記録に残す。</li> </ul>
---	---	--	--	------------------------------------	---

## 7 本時の指導（4／6時間）

- (1) 目標 材料の質感をもとに、表したことから自分の考えや活動を問い直し、さらに思いを深め、バランスを工夫してどのように表すか考える。 【思考力、判断力、表現力等】
- (2) 準備 教師：熱接着剤、ガンタッカー、かなづち、ペンチ、金切りばさみ、のこぎり、電動糸のこぎり、金床、きり、軍手、ぞうきん、アルミ針金、アルミホイル、アルミ缶、ヒートン、木材  
児童：金属（アルミホイルやアルミ缶など）、木材（松ぼっくりや木の枝など）の材料
- (3) 展開

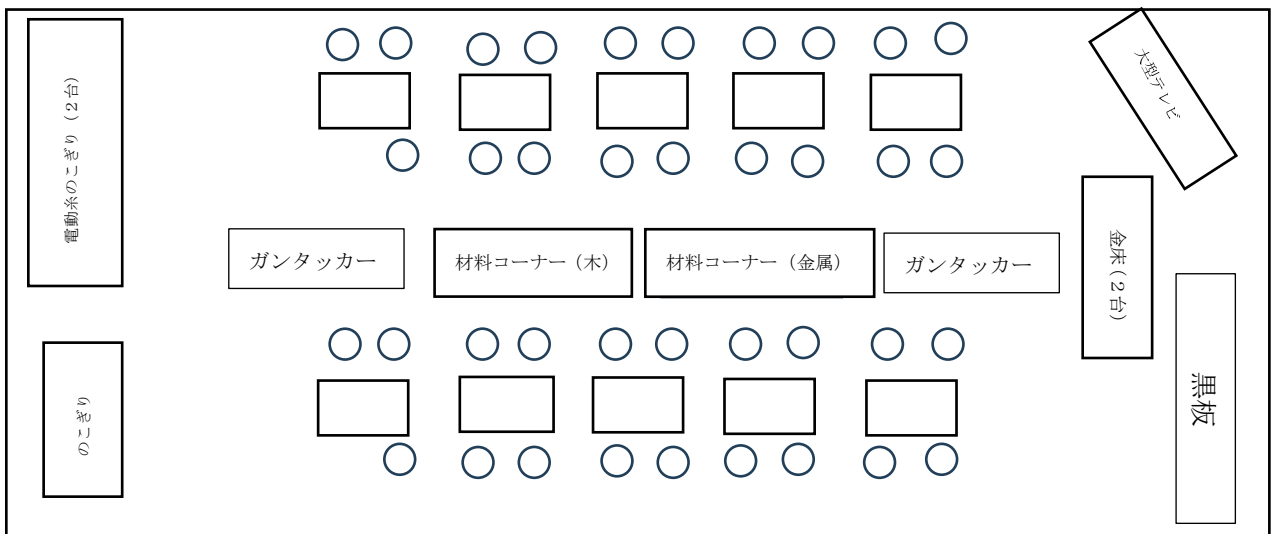
過程 時間	学習の流れ T：教師の発問 C：児童の反応	○：指導の工夫 ☆：研究の手立てに係る内容 〔共〕：共通事項に係る内容 ◆：安全上の留意点	評価規準 【評価方法】
導入 5分	<p>1 前時の学習を振り返る。</p> <p>T「金属と木の材料からこれまでにどんなことを表しているか紹介してもらいます」</p> <p>T「もっと思いを表すためにはどうしていけばいいと思いますか」</p> <p>C「後ろに金属の材料を増やすことでもっときらきらして強さを表せそう」</p> <p>C「下の土台の部分を太い木の材料を使うことでもっとなんざになりそう」</p> <p>C「楽しい感じをだすために、金属を上の部分にたくさんつけてにぎやかな感じにする」</p>	<p>○児童がこれまでに表したことについて提示し、話し合う。</p> <p>○紹介するものは、金属と木の材料の比重が同じようになっているものを提示し、バランスに着目して表しているものを提示する。</p> <p>○児童の表していることから、これからどうしていくかを問い、全体から部分に注目させることで材料のバランスに着目できるようにする。</p> <p>○どの部分にどの材料を増やしたり、集めたりしたらよいかを話し合う。</p> <p>○「チェンジ台」を使用し、様々な方向から見えるようにする。</p> <p>☆児童の表していることを紹介し、金属と木の材料の質感をもとに、主題を高めていくためには、どの部分にどのような材料を増やしていくかを対話の中で、構想を深め、表す。〔手立て2—①〕</p> <p>○金属と木の材料の特徴の違いを掲示しておく。</p>	

		<p>○金属や木の材料の特徴だけではなく、加工したうえでの質感の違いにも注目させる。</p>	
<p><b>提案</b> 自分の考えや活動を振り返り、バランスを工夫して自分だけの「いい感じ」を表そう。</p>			
	<p>T「これまでに表したことをもっと「いい感じ」にするためにどうしたら良いのか考えよう」 T「自分の表していることについてじっくり考える時間をとります」 T「さらに自分の思いを生かし、自分だけの「いい感じ」を表していきましょう」</p>	<p>○どんな部分にどんな材料を増やしたり、集めたりすればよいかの視点をもって活動を振り返ることができるようにする。 ○自席で自分の表していることをいろいろな方向からじっくり見て、一人一人が見通しをもてるようにする。</p>	
<p>展開 35分</p>	<p><b>2 材料を組み合わせ、表す。</b> C「力強さを表すために、木の枝に針金を巻きつけて真ん中に金属部分を増やしてみようかな」 C「にぎやかな感じにするために後ろの部分に木の材料を増やしてみよう」 C「楽しい感じにするために、きらきらさせたいから木をアルミホイルで包んで金属を先端の一カ所に集めよう」</p>	<p>○接着は、熱接着剤とガンタッカーで行う。 ○児童の机には、金切りばさみ、熱接着剤、かなづち、きり、ぞうきん、軍手を準備しておく。 ○材料コーナーに金属や木材を準備しておく。 ◆新たな材料を加工するために用具を使用するスペースを確保しておく。 ○材料の質感から形を組み合わせることで自分のイメージをもつこと。[共] ○活動の中で様々な方向から見るために「チェンジ台」を配置しておく。机間指導の中でも様々な方向から見るように声をかける。  ☆組み合わせている材料をさまざまな方向から見たり、友達のつくったものを鑑賞したりできる場の設定を行うことで、バランスの見方・感じ方を深めることができるようにする。[手立て2—②]  ○なかなか主題に迫れない児童には、表していることについて振り返り、教師と対話することで、どのように表していきたいかを考えることができるようにする。 ◆机間指導では、用具の安全指導を行う。金切りばさみを使用する際には、軍手を使用する。</p>	<p>発 金属と木の材質感の違いやバランスなどを基に、自分のイメージをもちながら、異なる材料の質感について、表したいことを見ている。 (観察、対話、表現)</p>

<p>整理 5分</p>	<p><b>3 活動の振り返りを行う。</b></p> <p>T「どの部分を「いい感じ」にしましたか」</p> <p>C「針金を木にたくさん巻き付けて、金属部分を増やすことで強い感じにしました」</p> <p>C「土台の部分を広く、楽しい感じにするために太い木を増やしました」</p> <p>T「次回は、自分だけの「いい感じ」をもっと表していきたいでしょう」</p>	<p>○表していることから、どの部分にどんな材料を使うことで自分の「いい感じ」を表すことができたのかを全体で共有する。</p> <p>○次時の見通しをもたせる。</p>	
------------------	---	--	--

### 8 場の設定

周りの友達の組合せを鑑賞しながらつくれるように場を設定した。また、一グループの人数を少なくすることでお互いのつくっている様子を見ながら自分自身の組合せもさまざまな方向から見るができるように工夫した。さらに、どの場所からも材料コーナーが近くなるようにすることで他グループの様子を見られるようにした。



### 9 板書計画

## 金属と木でいい感じ！

自分の考えや活動を振り返り、バランスを工夫して自分だけの「いい感じ」を表そう。

まで

**金属**

- ・強い
- ・きらきら
- ・てかてか

**木**

- ・あたたかい
- ・ごっごつ
- ・とげとげ

バランス

組合せ

形

題材計画